日伯新聞

Caixa No. 375
Phone. 2-3926

ブラジル國サンパウロ市
[illegible]
發行所 日伯新聞社
[illegible]

號外

一九三二年五月十七日

犬養首相兇漢に襲はれ、遂に薨去

犯人は見習士官、士官學校生徒十八名

内閣總辭職、重臣會議開かる

「東京特電」内閣總理大臣犬養毅氏は十五日午後五時半頃首相官邸に於て兇漢の爲そ撃せられ頭部に重傷を負ひ翌十六日午前二時三十一分遂に薨去した

右に付其後の東京電報並に總領事館着情報を綜合するに、十五日は日曜にて警備の手薄なるに乘じて**陸軍々人**五名、**海軍々人**四名は自動車を驅つて首相官邸に至り首相に面會を強要した、警衛の士は其態度のたゞならぬに極力之を拒んだが内二名は暴力を振つて邸内にちん入し殘りの七名も之に續いて押入つたので家人は大いに驚き折柄應接間に訪客と會談中の首相の身邊を慮り斯くと注進、難を逃がれるやう切に勸告したが、大腹の犬養氏は之に耳を藉さず自ら暴漢の強要に應ずべく起つて入口に之を迎へんとするや恰も氣を負ふた暴漢の扉を排して亂入するに會ひ、二、三問答の末首相が「**撃つなら撃つて見よ!!**」と大喝すると殆んど同時に放たれたピストルの爲其場に倒れたのであつた、

兇彈は全部で五發、

内一丸は首相の眼下に重傷を、他の一丸は同じくコメカミに輕傷を負はせた、時を移さず應急手當は施され輸血まで行はれ百方手を盡したが、何分老体のことではあり殊に出血夥しかつたため其効なく十一時二十五分危篤狀態に陷り翌十六日午前二時三十一分遂に空しく薨去されたのである

暴漢官廳を襲ふ

之と時を同うして陸海軍人數名は政友會本部、内大臣官邸、警視廳、日本銀行、三井銀行を襲ひ八ヶの爆彈を投じたが、政友會本部では自動車を破壞、警視廳では書記、新聞記者各一名負傷、内大臣官邸では巡査一名負傷せるのみにて他に何等の損傷はなかつた、尙首相官邸に於ては巡査三名負傷、内一名は死亡した

兇漢は自首

血盟團と連絡？

事件突發するや内閣では直ちに緊急閣議を開き善後策を講じ市内始め全國に警戒網を張ると同時に言論機關の取締を嚴にしたので他には何等不穩の形勢は見えない、犯人は共犯者を合して十八名、何れも事件直後憲兵隊に自首したが内五名は**海軍見習士官**、**十三名**は卒業間際の**士官學校生徒**であつた、井上、團兩氏を暗殺せしめたブラックリストに犬養總理、西園寺公、若槻民政黨總裁、幣原前外相其他政界財界名士の名が載つてゐた事より見て或は之と連絡あるのではないかと見られてゐるが未だ其眞僞は詳かでない、尙事件の直前團男暗殺事件の參考人として留置されたことある西田税の私宅へも一兇漢爆彈を投じて同人に重傷を負はせてをり犯人は十八日逮捕されたが、西田が血盟團に關係ありと見られ且つ該犯人は同じく之に屬する所より察すれば、西田により血盟團の内容を發表されんことを恐れて此擧に出たのではないかとも想像される

尙、右傾團は當日市中に現政黨、外交官、金融業者並に陸海軍首腦部を糾彈せる過激極まるビラを撒いてゐたが、今次事件は何れも周到なる準備と統制とが取れてゐたらしい

内閣總辭職

重臣會議召集さる

犬養總理薨去の旨天聽に達するや陛下に於かせられては直ちに高橋藏相を召され後任者の決定までは臨時に首相兼攝の大命を下され、藏相は謹んで之を拜受して御前を退下、それより再び閣議を召集協議の結果内閣總辭職を決し午前十時閣僚の辭表を取纏めて闕下に捧呈したが、陛下に於かせられては直ちに西園寺公を御召になり重臣會議を御前に開かれ善後措置を決せられることゝなつた

政權は何れに？

後繼内閣に就いては巷說區々であるが、民政黨を加へた擧國内閣が組織されるであらうと一部に唱せられるところである、然し政友會では西園寺公が高橋藏相を推薦し政友會單獨内閣の實現が可能であると信じてゐる

犬養毅氏略歷

安政二年（一八五五年）岡山縣に生る、慶應義塾出身明治十年新聞記者として西南役に從軍、西南の役後大隈重信とその大藏卿時代に關係を生じ一時統計院書記官となつたが、同十四年十月の政變に大隈の下野と共に辭官、爾來大隈幕下の一人として政治運動をなし改進黨の創立に參與、明治二十三年以來岡山縣選出代議士として衆議院に列し一回も落選の憂目に接したことなく尾崎行雄と双璧をなす同三十一年の大隈内閣に文部大臣になつたが在職二日にして政變に遭ひ辭職、爾來憲政本黨の謀士として十數年を經、明治末年頃大隈と政治的に絕緣し、國民黨の殘黨を率ゐて革新俱樂部を組織し、大正十二年九月の山本内閣に遞信大臣、同十三年護憲内閣に再び遞信大臣に親任、翌年五月辭職一旦政界隱退を聲明したが昭和四年十月田中義一死去の後を承けて政友會總裁に納まり、昭和六年十二月單獨内閣を組織して首相の印綬を帶ぶ、書は天下一品、刀劍鑑定に長す

大多數國民は賛せず

最近數ヶ月に於ける國粹黨、軍人派の跋扈は著しきものあり是等の團体によつて何時かは事件が突發するであらうとは殆んど公然云はれてゐたところであるが斯くも遽かに到來しやうとは誰人も想像せぬ所であつた、今次の兇行が現在の政治組織、社會組織、經濟制度に不滿を抱いての結果であるとすれば一般國民の贊成は到底望まれず、實際かゝる白色テロは極く少數に限られてゐると見られてゐる

「十六日巴里發」

全國に

軍政布かる

【ロンドン十六日發】當市諸新聞の接受せる東京電報によれば陸海軍部一齊に動員されて東京以下數都市は占據された、何れもファッショの性質を帶び全國に軍政を布かんとするものゝ如くである、檢閲嚴にして詳細を知るに由ない

鈴木氏を

總裁に推す

總裁を喪つた政友會では緊急幹部會を催し滿場一致鈴木喜三郎氏を犬養氏の後任として總裁に推戴することになつた

政權は依然政友會に

總理は鈴木氏か

【東京十七日發】昨十六日陛下の御召によつて參内した西園寺公は時局收拾、後繼内閣組織に關する種々なる御下問に奉答申上げた結果、高橋臨時内閣の辭表は御却下となつた、更に日曜に突發した兇變は單に一部軍人の策動に止り軍部全体とは何等關係なき旨發表され、憲兵隊に自首せる十八名は軍法會議に附せられ嚴重處罰されることゝなつた

尙、高橋氏は依然藏相の椅子に留まり首相には犬養氏の後を襲つて政友會總裁となつた鈴木法相が推されるものと見られてる

荒木陸相

引責辭職

後任は眞崎參謀次長

暴漢は陸相官邸も襲つた所荒木陸相は恰も閣議に出席中で幸に難を免るを得たが、十六日陛下の優渥なる御諚あるに拘らず責任を感じ更に單獨に辭表を捧呈、後任は現參謀次長眞崎甚三郎中將と決定した

だい頭せる

國粹社會主義

アゼンシア・ブラジレーラの東京通信に依れば今次の兇變は社會主義並に國粹主義を配せる國粹社會黨の組織と密接な關係ありと見られる、さきに社會民主黨書記長赤松克麿氏は同黨と絕緣其幹部の過半を道連として別に四万二千の組合員を擁し相當數の代議士の後援ある新黨を組織したが、當の赤松氏は

現在の政黨政治は日本現下の社會組織に適合せず當然改變さるべきものである、愛國心を除外した社會主義も極く一部少數の理想家以外の共鳴を得ざるべく、それかと云つて純然たる國粹主義は安達氏も云つた如く日本に存在すべからざるものである、民政黨は財閥の走狗に過ぎない今日中堅以下の階級を擁護し少壯軍部の共鳴を得られ眞に時代に適應するものは國粹社會主義をおいて他にない

と云つてゐる「滿洲は國民全体の爲に開發さるべし、資本家の爲にのみさるべからず」の聲はよく這間の消息を物語つてゐる